

平成27年11月 2 日

魚沼市議会議長 浅 井 守 雄 様

福祉文教委員会

委員長 渡 辺 一 美

福祉文教委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 行政視察の総括
(2) その他
- 2 調査の経過 11月2日に委員会を開催し、行政視察の総括を行った。

福祉文教委員会会議録

1 調査事件

(1) 行政視察の総括

(2) その他

2 日 時 平成27年11月 2 日 午後 1 時30分

3 場 所 広神庁舎 3 階 301会議室

4 出席委員 大平恭児、佐藤敏雄、渡辺一美、佐藤 肇、星野武男、高野甲子雄、
本田 篤、(浅井守雄議長)

5 欠席委員 なし

6 説明員 星教育長、青木福祉課長、森山教育次長

7 書 記 櫻井議会事務局次長、関主任

8 経 過

開 会 (13 : 29)

渡辺委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから福祉文教委員会を開会します。これから本日の会議を開きます。

(1) 行政視察の総括

渡辺委員長 日程第 1、行政視察の総括を議題とします。10月21日、22日の行政視察、大変お疲れ様でした。皆様から感想と、魚沼市での課題や取り組みについてを分けてご協議いただきたいと思います。最初に、都留市の C C R C 構想についてお願いします。

大平委員 大学との連携についてということで見させていただきました。コンパクトなまちでありながら大学があることにまず驚いたんですけれども、そういう中では教育とも絡めて高齢者の移住、特に東京都の人たちを呼び込もうという施策を総合計画あるいは総合戦略に位置づけて系統的に取り組んでいるということが非常に印象的だったし、そこまで議論を煮詰めればこういう C C R C 構想は、ありかと思いました。シルバー産業の構築と活性化ということで、雇用を生み出そうということも強調していましたが、なかなかシルバー産業といっても、言葉はいいんですけれども難しい分野だと思います。研究の余地は大分あると思いますが、魚沼市で同様な考え方で首都圏をにらんで移住を考えたときに、果たしてそのような強力な取り組みができるのかというのも、議論はテーブルに載せ

ていかなければならないと思いますし、考え方として参考になるのは、やはり大学との連携だとか付随する関連産業のノウハウや力を借りた中でどうやってビジョンを立てられるかだと思います。研究課題としてはいいですが、実際に魚沼市で導入できるかという、ちょっと難しいのではないかという印象を持ちました。コンパクトなまちだけに魚沼市と比較するのは難しいと思うんですけども、人口規模でいえば3万2,000人くらいで少ないですが、人口規模と面積を考えると、コンパクトなまちで取り組めるのは非常にいいと思うんですけども、魚沼市での取り組みとしては非常に厳しいところがあるのだろうと思います。

佐藤(敏)委員 都留市の感想については、大平委員が言ったとおりです。魚沼市の取り組みということですけども、既に隣の南魚沼市が取り組んでいるということで、南魚沼市のホームページをかなり研究しました。非常に参考になりますし、今後の私どもの課題も、人口減少対策は、外から入れるのと、うちで産むのと、外へ出さないという考えの中で、健康な方から移住していただく。特にこの調査の段階でも5割近い都会の方が田舎に移り住んでもいいという調査結果も出ておりますので、ぜひひとつ取り組むべきだと思います。魚沼市と南魚沼市は広域圏の共同提案もしているわけですので、ぜひひとつ魚沼市と南魚沼市でできる協力があると思いますので、おいしいところをいただくということではないですけども連携を取りながら、南魚沼市が取り組んでいる中に広域事業圏内という中で一緒に取り組むような形で、とりあえず当委員会と南魚沼市の委員会なり勉強会をして、そういう方向で積極的に取り組んでいただきたいと思います。

佐藤(肇)委員 2点ほど都留市の取り組みが始まる前提が魚沼市と若干違うのかなというのがありました。1つは、やはり大学が立地している関係。人口比で1割程度の学生が常に毎年入れ替わる中で、高齢化率も必然的に押し下げられているという若い町であるということが大きく違う点。それからもう一つは、東京から1時間程度の立地条件である。この辺が魚沼市と大きく違うところかなというふうに見てまいりました。この取り組みを進める中で前段となる部分がいくつかあったかと思います。都留市の場合、リタイヤしてから都留市に来るのではなくて、事前にもっと早い段階で移り住んで来られるような施策もやっておられた。もう一つは、通勤手当の補助で、2点生活になるかもしれませんけれども、早い段階で土日は都留市に来ていただくとか、そういったやり方がやっぱり1つあるのかなというふうに思いました。大学との連携というところでは、今後魚沼市が考える課題という中で、ただ大学があるからいいのかということも若干あったんですけども、大学が高齢者の受け皿といいますか、支えにどの程度なっていくのか。話し相手だとかカルチャースクールだとか、そういった部分ではかなり若い人たちの手があるというのは非常に有利な部分だと思うんですが、実際に本当に介護が必要だとか、困ったときにそういう人たちがどの程度活躍していただけるのかというのは疑問に思いました。魚沼市の場合、若い人たちがすらいないというところからどのように受け入れた高齢者をみていけるのか、受け皿の構想を立てないと、なかなかこの構想に踏み出していけないのかなという気がしました。もう一つは、環境面、山があつたり農業をしたり、そういった楽しみもできるという話をお聞きしました。耕作放棄地もあるという話の中から、ちょっと魚沼市の場合とは農業のやり方が違うのか。もう一つは、冬は雪が降らないということもあるので、都会の方が移り住むニーズという部分について、これから魚沼市で研究していかなければなら

ないと感じました。

星野委員 今回のCCRC構想について、雇用と地域経済の活性化に対する市長の熱い思いから生まれた構想であり、トップの強い思いにより国に先駆けてシルバー産業の構築に取り組んだことに対して深く敬意を表したいと思います。内容の中では、高齢者の居場所、サロンと健康ジムの整備につきましては、空き家や自治会館等の活用や公共施設の市民体育館を中心に実施しているとのことでしたけれども、今後魚沼市といたしましても空き庁舎の利活用や空き家の利用も含めて、敷居の低い高齢者のサロンづくりは、特に男性高齢者にとっては必要な施設だと思えます。女性の方は、それぞれご近所とお茶のみ等しているわけですが、なかなか男性の場合はできないということもありますので、その辺も含めて、こういうことをやることにより今後健康長寿社会の構築や自殺予防にも重要な役割を果たすのではないかと思います。それから、南魚沼市でもプラチナタウン構想を表明していますので、魚沼基幹病院、国際大学とも隣接している魚沼市としても、定住自立圏構想の協定を活用しながら水の郷工業団地等を含む八色原地区等、近隣を中心に、魚沼市独自でCCRC構想をやるのは、隣がやっているということになると厳しいという面もありますので、南魚沼市と連携しながらやっていくのも1つの方法ではないかというふうに感じました。二度の渋滞にぶつかったということもあったんですけども、午前中に近くなれば別ですけど遠くのほうを1カ所見るというのは、非常に時間的余裕がなくて質問もできなくて残念だったというふうに思っております。できれば来年の課題としては午後から1カ所、次の日午前1カ所くらいがいいというふうに感じてきました。

渡辺委員長 視察先との調整でその時間になりましたが、来年度はそういうことがないようにできればと思います。

本田委員 今回の視察でCCRC構想が一番の肝の部分だったと思います。そういう意味では、本当に1日時間をかけてもしっかりと話を聞いて質疑等も深くやりたかったというのが感想であります。ただ、都会から人を呼び込むという政策というのは、Iターンもそうですが、昔から行われております。そのうちの一環としてCCRCというものが出てきたと思っております。ただ高齢者を呼び込むのであるならば、いわゆる貧困ビジネスといえますか、住民票だけ都会において施設の中で収容といったものがどこかの県で問題になりましたけれども、決してその意味ではなくて市の総合計画の中で、シティプロモーションという形の中でCCRCを位置づけていくという姿勢につきましては、大変感銘を受けました。今後、魚沼市としてどういうふうに咀嚼するかということですけども、1つは、魚沼市としてというよりも国策としてもう少し後押しがほしいかなと思っております。住所地特例は確かに緩和されましたが、そうは言っても高齢者住宅に対する東京都の補助金の金額は非常に手厚いものであります。この辺を地方にという話であれば、少し本末転倒なところもあります。まずは、我々が手を上げる前に国策としてセッティングがほしいというふうに思っております。そして、元気な高齢者から取り込むという話ではありますが、当然介護保険の事業にも関与してまいります。たとえ住所地特例があったとしても、全く魚沼市の介護保険制度上で無関係ではないと思っておりますので、今度は第7期になると思っておりますけれども手を上げる事業者がいるのであれば、しっかりと市も把握して計画の中で位置づけてやったほうがいいのかというふうに感じました。

渡辺委員長 私の勉強不足で少し話を聞かせていただきたいんですが、高齢者住宅の都の政

策は手厚いというのはどういうことでしょうか。

本田委員 一般的にはサ高住でしょうけれども、ほかにも軽費老人ホームとかいろいろある
うと思います。私は今、サ高住を指して高齢者住宅という表現をさせていただきました。

渡辺委員長 そうすると、サ高住に対する都内の独自の支援があることを考えると、という
意味でしょうか。

本田委員 都内はということです。

高野委員 雪が降らないということと、東京から近いという関係、それから大学ということ
で、呼び込むにはいい条件という感じがあります。実際は介護の関係がある。早晚こうい
う施策についても出てきますので、介護保険等の関係が出てくるのかなという感じがしま
した。受け入れる条件としては地理的にいいのかなという感じがしました。それを魚沼市
に当てはめると、やはりどうしても地理的、気候的な部分が出てきますので、このまま当
てはめてというわけにはいかないのかなということで、1つのやり方としてはあるんでし
ょうけれども、魚沼市は別のやり方で行かざるを得ないのではないかという感じを受けま
した。

渡辺委員長 私の感想であります、やはり本田委員が言ったようにサ高住のことを考えま
すと、今のところ特定施設でないと住所地特例が効かないと。そうなるとやっぱり元気な
うちにサ高住で来ていただけないと、そのときにも住所地特例があるというようなところ
がないと、なかなか都会からサ高住に来ていただくというのは難しいという感想でありま
した。なので、見守りだけの元気な高齢者のためのサ高住の場合でも住所地特例が使える
かどうかというあたりが、今後の国に対する要望ですとかしていかなければいけないので
はないかというのを、本田委員と同じように感じた次第です。ただ、魚沼市としては、今、
特養が不足している部分が充足していったら、その後そこが空きになってしまうことを考え
るならば、元気なうちに来ていただきながら、支える側と、そして最終的に魚沼市で最後
を迎えていただくという政策も、もしかしたら必要なのではないかというふうに感しまし
た。一緒に行っていただきました福祉課長から感想があればお願いします。

青木福祉課長 C R C 構想には3つの課題があるのではないかと思います。まず、公共交
通網の利便性が非常に高いところの人たちが魚沼市に来た場合、どうなるのだろうとい
うことが第一点。それと、長く生きてこられた方ですので仕事の縁や地縁、血縁といったこ
とがある中でコミュニティを保ってきた人たちが、65年、70年経ってから移住して、果た
して環境的になじめるのかというのが2つ目の問題だと思います。それと、市の住宅政策
でもそうなんですが、なぜ高齢者専用の住宅をつくらないかというのと、専用をつくって65
歳以上だけになり現役世代がいないと、コミュニティが成り立ちにくいと思います。地域
の江ざらいとかそういった活動、65歳になりたてのころはいいのですが、過ぎてくるとな
かなか役員のなり手がいないとか、そういった問題が出てくるのではないかと。この3つが、
環境的なことを含めてなかなか難しいのではないかと。それと、もう一つは、先ほどから出
ておりますけれど、介護の保険料だけではなくいろんな福祉サービスにつながってきます。
例えば介護だけでも介護保険以外で一般会計から相当持ち出しがあるんですが、そうい
った部分も必要になってきますし、あと医療などもろもろの社会保障の関係でそれなりのお
金がかかってきますが、果たしてそれに見合うのが入ってくるのかということ、今の国策で
は難しいのではないかというように感じております。

渡辺委員長 皆さん方からご意見をいただきました。つけ加えることはありませんか。

佐藤(肇)委員 今回のCCRC構想が出る前段で、さっき言いましたけれども都留市の場合、若いうちから移り住んでいただきたいという政策が見受けられました。通勤手当の部分もそうですし、それから高校生以下の子どもを持つ世帯の家賃補助という形で実施されています。そういったことも複合的に考えながら、できるだけ若い人たちに早く都留市に移っていただいて、その後も年をとっていただいて。ただ単にサ高住をつくって高齢者だけ入ってきてもらえばいいということではなく、生活基盤自体を都留市に持ってきていただきたいという考え方。もう一つは、大学との連携の中で新しい事業を立ち上げていくといった考え方もあったと思います。産業も含めていろいろ後押しをされているのではないかと。魚沼市の場合もその辺をしっかりと考えていったほうがいいのではないかと思います。

渡辺委員長 ほかにありませんか。(なし) それでは、中野区の地域型保育事業の視察につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

大平(恭)委員 家庭的保育事業ということで、この辺にはなじみがないですが魚沼市でも考えなくてはいけない施策の1つだろうと思います。人口規模も産業構造も全然違い、抱えている問題も全く違うような中野区ですけれども、家庭的保育事業についても単体ではなくて複合的な経営をやられており、民設民営を基本的スタイルとして定着しています。魚沼市でこういうことができるかといえば難しい面があると思われまます。しかし、区立の保育所と家庭的保育事業者との連携や、スタッフの育成だとか保育士養成のための施策は、非常に見本になるのではないかと思います。大平市長が保育所の民営化を進めようということを考えている中では、ただ単に民営化というよりは、魚沼市としての保育あるいは子育てをどう考えていくかということで、そういうことを見れば中野区の公立、私立を含めた連携のあり方は、非常にお手本になるのではないかと思います。前回の視察で黒部市の保育園民営化を視察したときも、やっぱり保育の理念がまずあって、それをつくるために一生懸命汗をかくて段階的に民営化に取り組んできたところを見てきたんですけれども、そういう柱になるものを魚沼市でも考えていくのが、私はちょっと大変だとは思いますが、広い魚沼市の子育ての状況を柔軟かつ連携をしながらというところの取り組みを考えていく面では非常によかったと思いました。ただし、見てきたおうち保育園の中やスタッフの話の中では、運営的にも厳しい面の話もされていました。スタッフの確保とか運営経費など、かなりシビアな話をされていると思われました。なので、家庭的保育事業、小規模保育事業もニーズはあるかもしれないんですが、実際に運営するということになる課題がかなりあるのではないかと感じております。そこら辺を全部洗い出してこれからの魚沼市の子育てをもう一回再構築するくらいのことを考えていくべきではないかと思います。それがしっかり構築されれば、今回の中野区の視察や前回の黒部市の取り組みも見てきたかがあるし、それを柔軟に生かすべきではないかと思います。

佐藤(敏)委員 中野区の場合、平成15年から民営化に取り組んでおり、既に14カ所民営化し、この後も計画的に民営化を進めていく。また、その手法として指定管理制度という形もあったようですし、いずれにしても保護者の理解と中身を検討しながら民営化を進めてきたということです。民営化によって保育時間の延長やその他細かい対応ができるというお話も伺っていますので、当市としても今は幼稚園と保育園があるわけですが、今後はこども園というような形で、片一方は幼稚園で片一方は保育園ということではなくて、こど

も園に向けてさらに民営化の方向で進めていくべきだと感じました。

佐藤(肇)委員　中野区の保育事業の中で魚沼市と根本的に違う部分ということでいろいろ考えてきた中で、やはり毎年待機児童が出ているということがある中でこの家庭的保育事業や小規模保育事業が必要とされ成り立ってきたんじゃないかという印象を強く受けました。魚沼市では、どこの保育園も定員に満たないような状況であって、この小規模保育がどこで対応できるのか、また、これを取り入れたときに一般のところでは、仮に事業所があつてつくったからといって成り立たないというふうに感じてまいりました。特に入広瀬幼稚園が休園という形になりますが、それを小規模保育という形で本当にやっているのかどうか、私は全く違う考えであって、やはり子どもが少なくなって小規模保育ではなくて、それなりの環境の中で保育をやっていただきたい。今回視察で見えてきたところは自分の園庭も持たない、部屋も間借りの状態という中で、なかなか子どもが伸び伸び遊んで暮らせるということではないんじゃないかと。そういうことであれば、魚沼市は魚沼市としてしっかりと施設的な部分も力を入れてやって、要は子どもを産んで育ててくれる環境という部分は、やはりしっかりとつくってやってやるということをするべきだと思います。

星野委員　大体同じような感じなんですけれども、都市部での保育園の待機児童が多くいて、その解消と多様な保育のためには、あそこの地区においては小規模保育が必要だと感じてまいりました。当市におきましては送り迎え等も含めた中で、それと運動する場所もないようですので、未満児のうちにああいう形もいかなというふうに感じましたけれども、保育園という形の中では、魚沼市の場合はせつかくこれだけ自然豊かな環境もあるわけですし、そっちのほうがいかなと感じてまいりました。それから、保育園の民営化につきましては、さすがに都会であり受け皿となる法人、企業等の実績があるわけですし、民営化に移行しやすい環境が整っていると感じてまいりました。しかしながら、魚沼市としましても当然いつまでも行政だけがやっていていいものではないと思いますので、民間が参入するような気持ち、体制をつくった中で民営化ということも今後の課題というふうに感じてまいりました。

本田委員　感想ですが、3点ほどあります。今回は中野区ということで大都市の事例として拝見させていただきましたが、やはり同じ人口規模でそういった事例があると非常に参考になるのかなと感じました。特に中野区は待機者対策としてこれら小規模の事業をやっているということでもあります。魚沼市ということになりますと、そこから入るということというのは少しコンセプトが違いますので、そういった視点から同じ規模の自治体で見させていただきたかったと思います。ただ、2点目ですけれども、事業所につきましては非常に一生懸命やっているなという印象を受けました。特に視察先の事業所は、保育園にもかかわらずさまざまな福祉施設の指定管理も受け持っているということでもあります。ソーシャルビジネスのあり方として、これから先、受け皿としての民間育成というのは、魚沼市にとって喫緊の課題かなというふうに思っております。3点目ですが、そうは言うけれども我々田舎から出た人間の目線から見て、やはり狭いところに園児たちが入っていてとてもかわいそうかなという印象を正直持ちました。魚沼市であればしっかりとした事業所がきちんとした認可を受けた保育施設で事業を行うのが、魚沼市にとっていいのかなというふうに感じました。今後魚沼市としてどうなのかということではありますが、小規模系の事業につきましては、魚沼市には私は当てはまらないというふうに思っております。それよ

りも、これから保育園の民営化を控えております。実際に事業を行っている民間事業所もおりますので、しっかりとした連携というものを当委員会で調査して、スムーズな移行ができるかどうか議論していかなければならないと思っております。そしてもう一つ、小規模の保育園は、発達障害に関するものは中野区もやっていないということでありました。逆にそういったものに特化することも必要ではありますが、私はやはりほかの園児も看護師がきちんとバイタルチェックをできるような環境の中で、そういったさまざまな障害のある子どもたちの受け皿もしっかりとやってもらうことが必要なのではないかというふうに感じました。

高野委員　　まず印象は狭いということと伸び伸びしていないということでもあります。自分も保育園の送り迎えからやりましたし、今も保育園の行事には招待が来ますので見ていますが、魚沼市の保育はかなり万全な体制だと思っておりますので、そういうことから比べるとやはり少し子どもたちの伸び伸び感、保育士も含めてですが、ないのかなというのが第一印象でした。あとは、障害児も含めて保育をする必要があると思っております。保育ということで、子守りと保育は違うと。子守りさんに預けたり保育園に預けたりという経験がありますので、子守りと保育は違うんだということを強く体験しています。魚沼市の保育の関係については、行政がしっかりやってくれていますので、子どもが少なくなった中では、定員を少なくして保育の充実という形に向いていくほうが現実的かと思っております。民営化について言えば、保育は利益を生み出しませんので、結局は保育士の給料に影響してきます。民営化をするに当たっては、その辺をしっかりと確保するということが条件になるのかと感じました。

渡辺委員長　　まず、今回の小規模保育事業というのは、全てゼロ、1、2歳児までですので、そういう意味では、これまで私たちが考えている魚沼市にある保育園とは全く違うものを見てきたという認識が必要だったのではないかと思います。小規模保育の場合、ゼロ、1、2歳児ですので、広い園庭などが必要というよりもなるべく家の中にいるような母子密着型の保育が本来は必要であるというところで、家庭的保育事業は、できれば1人、2人くらいがいいなと私のほうは考えている次第です。今回のところは家庭的保育のユニット型の小規模保育でしたので、少し人数的には多くて、私たちの地域である形の小規模保育ができるかという、少し疑問ではあるなというふうには感じてきました。ただ、魚沼市も未満児については待機児童が全くないかというところでもなく、実はきょうも午前中ちょっと相談を受けてきたんですけども、お仕事に出たくて来月あたりから預けたいと言ったんですけども、保育所に行った段階で、今すぐは無理です、4月にならないと、というような話だったというふうに聞いて、それを今すぐ何とかしてくれという話ではないんですけども、やはり年度の途中であったとしても預けていけるような体制をつくってもらわないと、なかなか仕事に出づらいという話を聞かせていただきました。恐らく公立保育所で断られると民間のほうに多分流れていくんでしょうが、それが本当にその方たちのニーズに合っているのかというところと違うのではないかと。そういったことを考えると、やはり希望している場所の近くで保育をしていくという皆さん方の希望を叶えるためには、私はいい制度であるというふうに思っています。ただ、課題はまだたくさんあって、どのような形にしていかなければいけないか。未満児をこれから預けたいと思っているお母さんたちのニーズに合わせて、どのように作り上げていくかは、魚沼市バージョンが

必要なんだなというふうに考えて見てきました。もう一つ、民営化の話としては、やはり魚沼市全体の子育てのビジョンをしっかりと持った上で、どういう保育が必要で、未満児はどうか、年長さんに対してはどのような教育をしたいといったしっかりとしたビジョンがあった上で、こども園化をするようなところに合わせて地域のお母さんの方々の理解を得ながら民営化を進めていく以外にないのかなというのも感想でありました。教育長も今回一緒に行っていただきましたので、もし感想がありましたらお願いします。

星教育長　　まず、魚沼市にとって保育のビジョンはどうあるべきかを考える必要があるという委員の皆さんの話を伺っていますと、魚沼市にはないと思われているのか。ちょっと私は心外に思ったんですけども、それは私はあると思っております。先ほどもいろんな方がおっしゃっていますが、小規模保育も家庭的保育も基本的に未満児の方が対象の、国的に言えば待機児童対策ということになります。先ほど渡辺委員長の話にもありましたけれども、そういう方が1人とか2人とか、数人おられるかもわかりませんが、私は基本的にはそんなに多くはないと見ているので、小規模保育は今のところ積極的に進めるようなものではないというふうに見ています。それよりも今回の入広瀬幼稚園の休園のように、あそこは幼稚園がなくなってしまいますと保育施設がなくなるので、それで今回入広瀬保育室、仮称ですが、として募集をかけています。それから、今ひかり保育園が分園ということで、数年後につくし保育園と統合しますけど、そうなるとその地区でもそのような施設が必要になるのかわかりませんが、そういう形なら今のところあり得ると思っています。積極的に小規模保育が必要というところまではいかないのではないのかというのが私の見立てです。

渡辺委員長　　皆さん方からご意見をいただきました。つけ加えることはありませんか。

大平(恭)委員　　この資料ではないんですけども、ホームページで中野区の子育て支援事業計画を見させてもらったんですけど、少し印象的だったのが外部評価をやって、年数的には浅いのですが第三者による評価をやっていて、お父さんお母さんのニーズに合ったものを積極的に取り入れながらやっていて、満足度が非常に高いということが載っていました。実際はどうかということになればちょっとわからないんですけども、そういうことを丹念に拾える機関というのがあれば、魚沼市も先ほどからご意見が出ているようなことも吸い上げて、どういうふうにこれから考えていけばいいのかと参考になりました。今後こういうことを含めて考えていただければと思います。

渡辺委員長　　先ほど教育長から待機児童が1人、2人ではないかというお話だったんですが、私はかなり聞いているので、もしよろしければ実際に申し込みをしなくても問い合わせがあって、だめで帰ったということを通年で各保育所それなりにデータがあるかどうかというところもあると思いますので、もしよろしければそこは少し調べていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

星教育長　　承知しました。

渡辺委員長　　ほかにありませんか。(なし) それでは、小田原市の小規模特認校につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

大平(恭)委員　　私が要望させていただいて実際に皆さんに見てもらえて、現地を見た感想なんですけど、非常に立地的には皆さんもお感じになったと思うんですけども、住環境は私たちから見て厳しい条件で、中学校がなくなって、それを受けて地域と関係者が一緒に

今回の片浦小学校の特認校制度を使いながら教育環境を整えているというのが非常に印象的でした。小規模校のあり方の1つとして特認校というのが制度としてありますが、地域と関係者が一体にならないと、なかなかこういうのはつくれないという中では、取り組みとしてはすごくすばらしい取り組みを見させていただきました。農園のご協力を得て栽培や収穫、果樹園の作業をやったり、ボランティアを取り入れた授業、専門家を交えた本格的なプロの目から見た本物を見せるような授業、片浦小学校が英語に力を入れているところでもありますけれども、それも地元にあるホテルの支配人さんの配慮など、そういったつながりで有効に、密にやっているあたりは、非常に熱意も感じました。振り返って我が市を見ても、小規模校に対する取り組みは今後考えていかなければいけないと思います。地理的には広いエリアに点在している小学校や中学校の教育環境をどう整えていくか、1つの参考例としては見るべきものがあつたと思います。ただ、通学や地域性を考えれば、非常に難しい面もあると思いますし、無理やり交通網を整備したり、地域の事情を無視した形ではできないものですので、そこら辺を課題としてあげながらどう考えていくか。これも、きちんとした教育環境を整えるための議論を集中的にやって、それも地域の方を交えながら話し合っていくことがどうしても欠かせないと思いますし、それをやるのが魚沼市の教育環境を整えていくのに重要なポイントだと思います。今回の片浦小学校の取り組みというのは、50人くらいから80人になったと。このことがすごく印象的で、取り組めればこういう環境もつくれるのではないかと多くの市民の方にも共有できれば、選択肢の幅が広がり、閉塞感だけでなく取り組み次第ではこのような小学校のあり方もよいと皆さんが思えるような議論をやっていければと思います。

佐藤(敏)委員　大平委員の言ったとおりなんですけれども、もしもこの管内にああいう学校があつて、私が子どもだったり子どもがいたら通学させたいという気持ちになりました。やはり地域の理解と協力があつてのことで、当方に見てもそれに近い場所があるわけです。実際、子どもが3人だの5人だのというところがあるわけで、統合もしかり、しかし、地域が本気になってそういう姿勢も示せば人も集まるのではないかと。これも人口減対策の1つかということで、非常に参考になりました。今後の課題として、特認校ではなくても教育の特性、例えば英語でなくても自然に親しんだカリキュラムで教育しますということを出していけば、それなりの成果も出てくるのではないかとこの感じを受けてきました。

佐藤(肇)委員　小規模特認校という制度をうまく使って小学校を残したという評価については、なかなか頑張っておられるという気がしました。一番強く感じたのは、入学に若干の制限を設けている。要は、支援が必要な子は断るだとか、通学も自力だとか、そういった条件を付した中で集まってくる子どもたちを見てやれるという体制。これを果たして魚沼市が同じような体制が取れるのか、非常に疑問に思いました。特に私が感じたのは、魚沼市内に同規模程度の学校がいくつかあるわけなんですけど、それを1つだけを小規模特認校にしてどうこうということではなくて、やはり全体の、そうすると学校の教育的な部分で差をつけてしまうのかなという気がしました。1人の教師について15人という非常に手厚い教育や見守り、いろんなことができる。あえて加配をしなくてもそういったことができるという中で、そうなる集団的にやっつけられない子がそっちに逃げるとか、いろんな弊害みたいなのも出てくるのではないかとこの感じがして見てきました。今、廃校にした

らいいのか、統合したほうがいいのか、やはり学校のスケールメリットというのは、1クラスでいいのかといわれると、私はそうじゃないんじゃないかと、最低でも1つの学年が2クラスくらいできるような小学校であるべきではないかと思えます。学級がえもできないようではなかなか難しい。1年生から6年生まで同じクラスというのも、中学になっていったときにいろんな弊害も出てくるのではないかと。競い合って大きくなっていく部分というのがあるわけですので、ある程度のスケールメリットは必要だろうと思えます。小規模特認校、こういう特化した考え方の中では、ありだとは思いますが、市内全体を見たときに、これが全てではないだろうというふうに私は感じてまいりました。

星野委員 小規模特認校としては、私は結構補助金等があるのかなと思ってはいたんですけど、国、県の補助金はないということでした。地域全体の少子高齢化により少なくなった児童数が、少人数を生かした教育や外国語活動、また、放課後子ども教室、自然環境や伝統等を活用した、地域住民を巻き込んだの活動等により15人学級に近くなったということは特筆するものがあるのかなと感じました。それと、地形的にはなかなか大変なところなんですけど、東海道線の根府川駅が近くにあり、通学には非常に便利な場所にありますし、また、風光明媚な自然環境に恵まれた場所にあるということも大きな要因であったのかと思っております。魚沼市におきましても、児童数の減少は今後も進んでいくものと思われまので、今後の学校統合等も含めた中で小規模特認校を視察した意義は大変深いものがあつたというふうに感じるとともに、大きな示唆をいただきました。特に入広瀬地区では、先ほど来のお話のように来年度幼稚園の新入園児がゼロということも予想されている中で、今後は保護者を中心に地域の人と話し合いも必要な時期に来ているように感じましたが、あくまでも地域の人たち、あるいは保護者の皆さん方の気持ちを大切にしながら、将来に禍根を残すことのないような施策を講じていかなければならないと痛切に感じてまいりました。

本田委員 今回の視察で一番よいところを見させていただいた、すばらしかったというのが第一印象であります。蛇足ですけど、私は三島由紀夫の潮騒という本が愛読書の1つで、そのような生活を夢見て30年経ちましたが、片浦小学校で学んでいる子どもたちが本当にうらやましいし、また、立派な大人になっていただきたいと思いました。小規模特認校が魚沼市としてどうかというところでありまして、形で入るのはどうかと思いますが、魚沼市の小学校それぞれ特色を出してやっているとっております。特に、片浦小学校のグランドデザインがありましたけれども、これと魚沼市の小学校を比較しても、それほど遜色ないのかなというふうに思っております。今後も特色を生かして取り組んで、魚沼市らしさを出していただければと思っております。

高野委員 私は、すぐ母校に入ってきたという感じがしたと最後の挨拶で言いましたけれども、まさにそういう感じで、学校というのは、やっぱり地域の生活の大きなポイントになっているというのをまず実感しました。私の学んだ学校は、それが当たり前でありまして、稼いだ分は学校に、余った分は学校に寄附をするという教えでありますので、今もそういう伝統でやっていますし、時々行ってもそういうのを強くしていました。この特認校という形で、それが改めて教育、人材育成という部分について生かされてきていると感じました。入広瀬の関係については、各地域の方が教育というか、小学校、中学校、幼稚園も含めて非常に一生懸命やってきているというふうに、私が議員になってから視察にも行きま

したけれども、その辺は頑張っているという印象を受けました。成績も上がっているというふうについて最近聞いたような気がします。小規模の学校のメリットが工夫によっては教育なり人材の育成に有効というか大切なんだというのが改めて感じられました。クラスの少ないことについては、1年生から3年生まで、4年生から6年生までという形で、縦の関係での合同教育をやられているということもあり、そういうのも含めて教育のあり方は工夫次第で小規模校でのよさを十分発揮できる。それが教育なり人材育成に非常に効果があるというふうに感じました。

渡辺委員長　では、私の感想ですが、先ほど来、入広瀬小学校のことが話題になっておりますけれども、来年から幼稚園がこども園のほうに行かれて、その後は入広瀬小学校に戻ってくるということにはなっておりますが、その後、何年か経ってしまうと一旦すもんこども園に行った子どもたちがまた分かれて小学校に来るのかというところを、保護者がそのまま受け継いでいけるかどうかというところは、ちょっと心配なところもあるなど感じております。片浦小学校の情報等を地域の皆さん方は知らないと思うので、どこかのところで話題提供をしていく、あるいは勉強会をしていくという場所があったらいいと思ったのが1つ感想でありました。市長も、教育委員会でも、中学校は統合しても小学校はその地域に残していきたいという方針があるのであれば、その方針に向けてどのような働きかけを地域にしていくかということも課題だと感じた次第です。教育長からもお話しいただきたいと思います。

星教育長　まず最初に高野委員にお聞きしたいんですけど、小規模はやり方によっては有効だということをしきりにおっしゃいますが、小規模であればいくら少なくてもいいですか。

高野委員　いくらというところはなかなか難しいんですけども、1桁になったら考えるかなということでしょうか。今の段階では。

星教育長　大変失礼な質問をしたのは私も重々承知しています。何でこんなことを聞いたかといいますと、近隣で小規模特認校制度を取り入れているのが南魚沼市で、後山小学校と栃窪小学校があります。後山小学校に学区外から何人来ているかと聞いたら50%だと聞いてびっくりしたんですが、実人数は何人か聞いたら6人、合計で12人だということでした。失敗だとか成功だとか言っているものではないのですが、後山の方々にしてみれば、小学校を存続するためにはやむを得ないと考えて受け入れたものだと思いますのでいいんですけど、果たしてこのくらい的人数でいかなものかと考えてしまいました。栃窪小学校は、直接聞いていないのでインターネットで調べたのですが、やっぱり人数的には12人くらいなんです。外部から何人の方がおいでになっているかわかりません。片浦小学校の場合は82名中31人が学区内で51人が学区外ですから、どうしてこのようにある意味成功したのかといえば、一番大きいのは交通の便だと私は見ています。もちろん2つ目に特色あるカリキュラムをつくったというところ。それと同時に地域住民の絶大なる支援があるということに尽きるんじゃないかと思います。後山の場合なぜそうならないのかというと、やっぱり交通の便だと思います。6人の子どもたちがどうやって通っているかと聞いたら、浦佐駅からスクールバスが出て通っているというんです。ですから、そうしないと実質的には無理だと思うんですね。でも、そうやればもっとふえてもよさそうですがなかなかそうはならないというところを見ると、いろいろな要素があるのだろうと思います。小規模特認校というふうに呼ばれていますけれども、文科省はこういうふうに名前をつけたとは思え

ないので、どういう制度を使ったのかというと、学区を定めた法律のいわゆる適用除外なんです。文科省からの通知による制度なので、先ほど星野委員がおっしゃったように何らの国からの支援がないということではないかと見ています。ですので、特認校を特認校たらしめるためには、地元の熱意が1つと特色あるカリキュラムで、外的条件として交通機関ということになると思います。魚沼市で特認校制度を定めることに私は反対ではないんですけど、仮に定めたからといって過大な期待は難しいだろうなというふうに見ています。ただ、やってみる価値はあると思います。今ほど話題になっている入広瀬小学校に取り入れるとすれば、須原小学校区からまず行くことになるだろうし、次に広神西小学校区から行くのが一番考えられやすいんですけども、そうなったときにその学校はどうするんだという話にならざるを得ません。制度を立ち上げるのはそんなに難しくないでしょうけれども、実施場面になってくると、なぜうちの小学校から行くんだという話にならないようにしなければならぬと思います。

渡辺委員長 皆さん方からご意見をいただきました。つけ加えることはありませんか。

佐藤(肇)委員 小田原市で聞いてくればよかったのですが、特に加配をしているわけではないという話を聞いた中で、いただいた資料の9ページに校務用員という方が3人配置されています。共同作業や事業に大きな力を発揮してくださっているんじゃないかと感じたんですが、どういう仕事をされる方でしょうか。

星教育長 文科省が特別な人的な支援の対象となるのが、9ページの1番から12番までです。ここには何らの増員要素はないと思います。そこから下は市の予算ですので、市が認めれば増員することは可能だと思います。3人の校務用員がついているのは、魚沼市でも2人か1.5人、1名は正職員、1名は非常勤職員としていますから、人数的には倍になっているのは、先ほど言った農作業などを勘案しているのではないかと思います。

佐藤(肇)委員 私もこの人員の配置を見たときに、国からの援助はないという中で市が相当頑張っているのかなというふうに感じました。ですので、教員以外の部分で少なくなった学校で特色を出していくのであれば、私はやはり庁務員の方をしっかりと置いていただいて、学校の外周りを含めていろんなことを手助けいただくことが大事なだろうなと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいというのが私の考えです。

渡辺委員長 ほかにありませんか。(なし) なければ、現地視察の総括については、以上とします。

(2) その他

渡辺委員長 日程第2、その他を議題とします。委員の皆さんから協議事項等はありませんか。

佐藤(敏)委員 C C R C構想について、南魚沼市がお泊まり練習会などの募集もしているということですので、ぜひ勉強に行く機会を検討していただきたいと思います。

本田委員 慎重にしないといけないと思います。相手があることですし、ほかの委員会もあるので、まず議長に意見があったことを報告するのが1つ。それから、今ここで決められないのかと思います。議運もありますし、議員連絡協議会もあります。議長の意見を聞き、結果として福祉文教委員会でいいということであれば、うちで受けるという形のほうが、

相手の気持ちも気にしながらやっていかなければなりませんので、慎重にお願いします。
渡辺委員長　しばらくの間、休憩とします。

休　　憩（14：52）

休憩中に懇談的に意見交換

再　　開（14：57）

渡辺委員長　休憩前に引き続き会議を再開します。南魚沼市のCCRC構想についての勉強会という意見については、議長に報告した上で対応していただくことにしたいと思います。これにご異議ありませんか。（異議なし）それでは、そのように決定しました。ほかにありませんか。（なし）これで、その他を終わります。本日の会議録の調製については委員長に一任をいただきたいと思います。本日の福祉文教委員会はこれで閉会といたします。

閉　　会（14：58）